

圓成寺の歴史 〈賀來氏の菩提寺〉

阿南山圓成寺は臨濟宗妙心寺派の禪寺である。永祿六年（一五六三）に大友氏の命により家臣であった賀來氏がこの地に精舎を営み可菴禪師を請じ開山として開創された寺である。当時この地は阿南郷にあり、寺領の石高は千石といわれ、可菴禪師は之を安んじ、阿南山圓成寺（圓成とは円満に成就するという意味）と名付けたという。

資料によると中尾あたりにも寺領をもち、天禪寺（中島）、善意寺（中尾）、天福寺（東院）、普聞院（桑原）という末寺を抱える有力寺院として当地方の崇敬を集めたことが伺われる。

境内には建武元年（一三三四）、康永二年（一三四三）の五輪塔や南北朝時代の板碑が存在することから六百年前より圓成寺の前身が既に存在していたものと思われ、圓成寺は豊後国に臨濟宗が伝わった最も早い時期に創設された「古刹」であった。

江戸時代中期に臼杵月桂寺の篁谷和尚の法嗣、壽山和尚が中興し圓成寺の礎を築く。（壽山和尚は宗方、大樂寺の中興開山でもある）

江戸時代後期享和三年（一八〇三）不慮の火災にあい、山門、本堂ともに焼失するが、五世哲仙和尚が再中興し今日にいたる。（圓成寺の資料による）

寺内に残る賀來氏関係と思われる南北朝時代の石造物

◎ 賀來小二郎惟光の菩提五輪塔

平安末期豊後の国の南半分を勢力範囲として有力な武士団を形成していた大神氏の一族、賀來惟綱は賀來荘の地頭職として大友氏の配下にあった。文和三年三月（一三五三）九州の平定をするために西下した征西大将軍懷良親王（南軍）は菊池武光等と手を結び、着々と勢力を伸ばしたが、時の九州探題一色範氏（北軍）はこれに従わず、相対することとなった。一色党の大友一族、田原貞広、賀來惟光等は足利尊氏に弓を引く、少弐頼尚軍を大宰府浦城に攻めたが、菊池氏の救援に敗れて、針摺原でいづれも戦死した。惟光は時に二十二歳のわかさであった。

碑面に

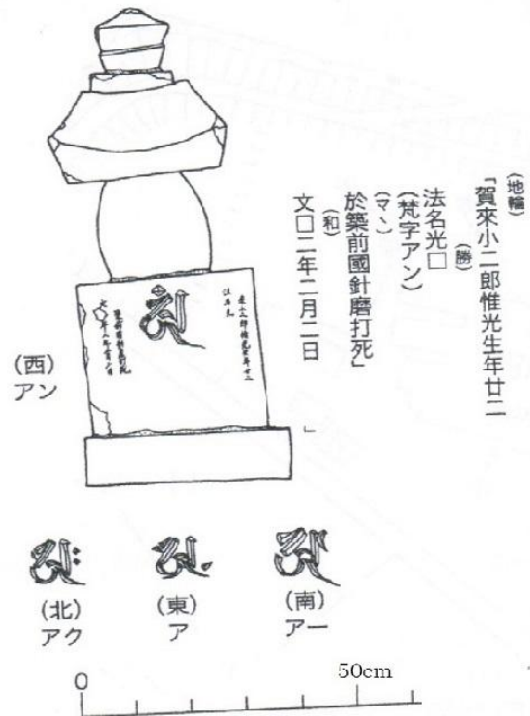
賀來小二郎惟光 生年二十二

於筑前針摺原戦打死

文和二年三月二日

とある。（圓成寺の資料による）

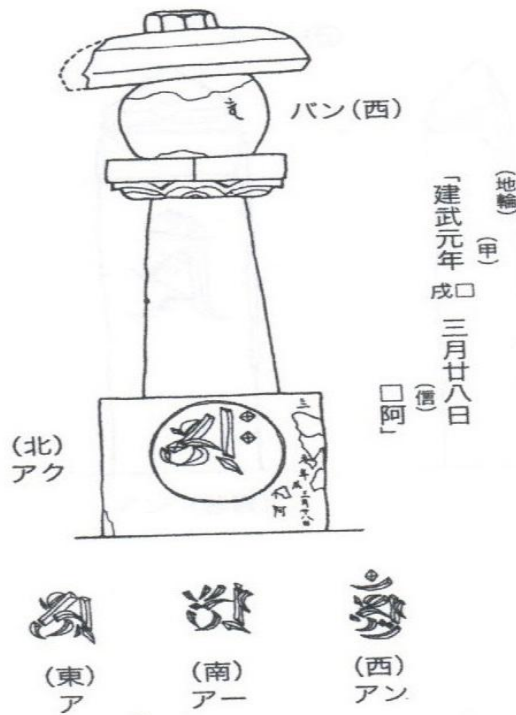
◎ このほか五輪塔や板碑が残されている。



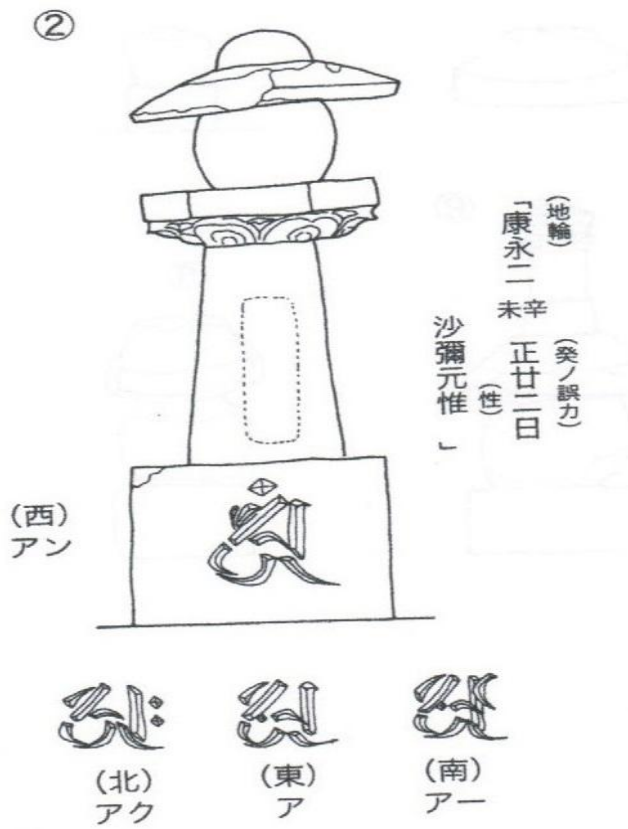
賀來小二郎惟光菩提塔 文和2年(1353年) 円成寺墓地内

円成寺

①

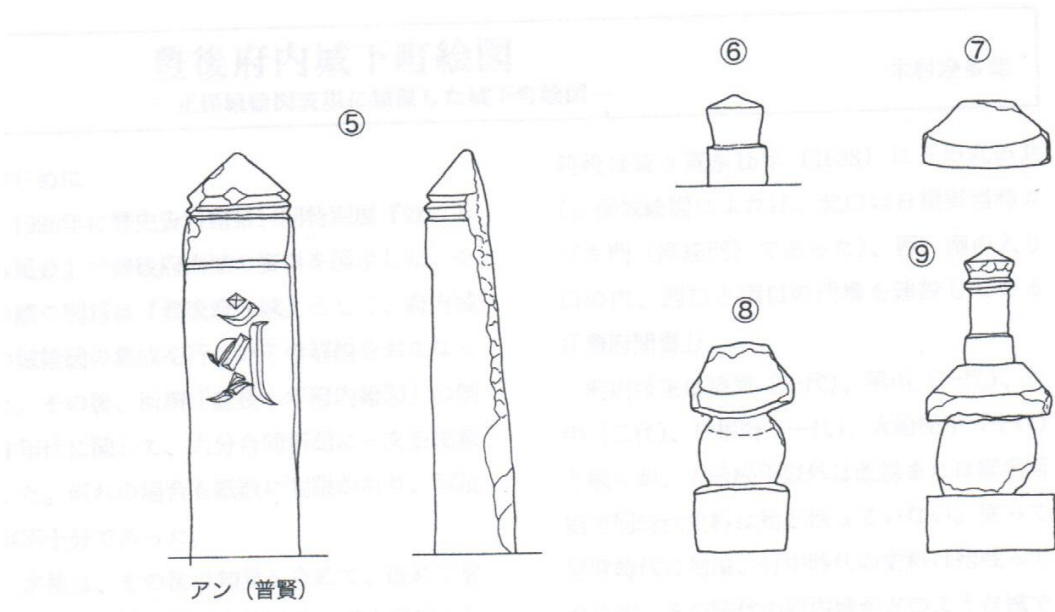


建武元年(1334年)の五輪塔



康永2年（1343年）の五輪塔





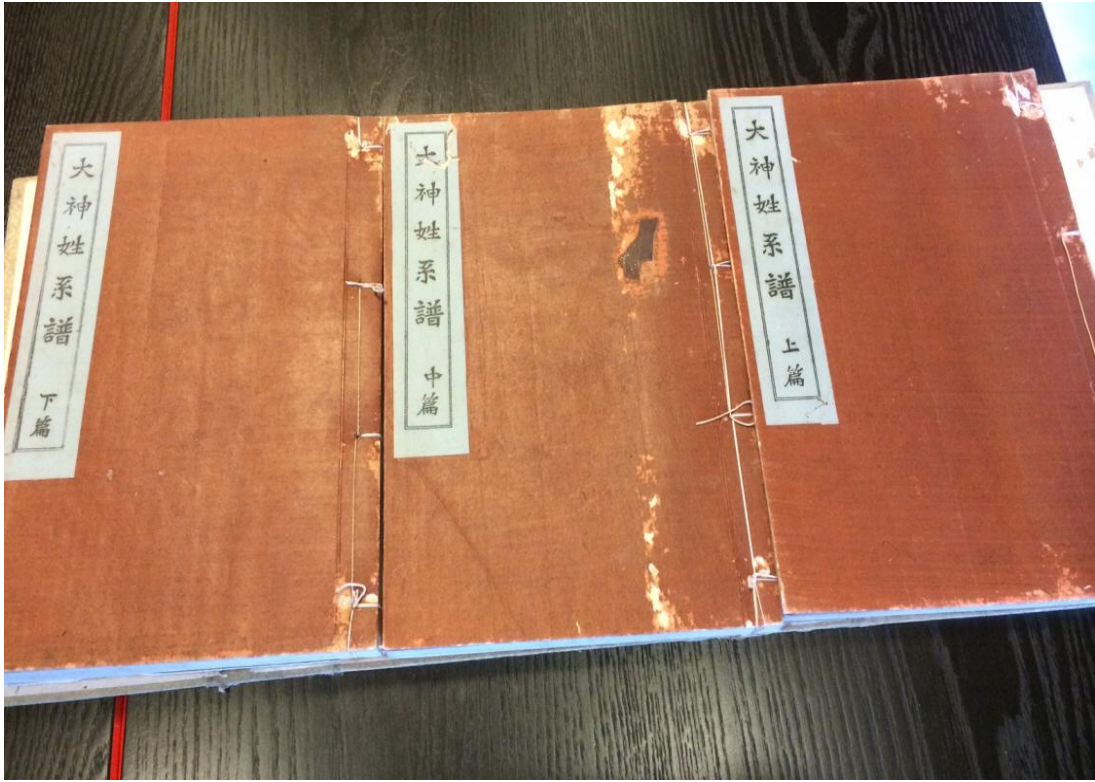
南北朝時代とおもわれる板碑等（上図）



山門と境内

写真は、松村政弘さん撮影

図面は大分市の報告書から抜粋



賀来惟達氏が著作された大神系譜（円成寺保存）



賀来氏歴代の墓と惟光の菩提塔、中央が賀来惟達氏とおもわれる（昭和8年撮影
円成寺提供）